問診グラフ アドオン 利用マニュアル

`MonshinChart_Mac.fmaddon`（Mac版）

この文書について

このマニュアルは、Claris FileMaker アドオン「問診グラフ」を導入する医師・開発者向けの
利用ガイドです。導入方法、初期設定、日常の使い方、トラブルシューティングをまとめています。

---

1. 概要

「問診グラフ」は、症状の経過を折れ線グラフとして可視化する FileMaker アドオンです。
診療科別の問診セットから症状を選び、重症度・経過をチップで入力するだけで、多段の経過グラフが
自動生成されます。AIによる現病歴・経過記録の下書き生成機能も備えています。

本アドオンは医師個人の業務支援ツールです。診療録ではありません。 法定の診療記録は
各医療機関の記録および ORCA が正本であり、本アドオンが保持するのは作業用データです。
AIが生成した文章は、必ず医師が内容を確認・編集したうえでご利用ください。

主な機能

- 診療科別の問診セット（小児科系・内科系・外科系・皮膚科系・その他）から症状を選択
- 症状セットを自分で新規作成・編集・削除できる（診療科ごと）。標準セットも不要なものは非表示にでき、いつでも元に戻せる（5.3 参照）
- 症状ごとの重症度・経過をチップで入力。独自の言い回しは辞書として登録・削除可能
- 発症〜終了のエピソードを「◯日前」形式で入力し、多段の経過グラフを自動生成
- AIによる現病歴・経過記録の下書き生成（要医師確認）
- グラフ画像の保存
- 症状入力・グラフ描画は AI機能を使わない限りオフラインで動作

同梱オープンソースソフトウェア

- Chart.js v4.4.1（MIT License）

---

2. 動作環境

項目	要件
OS	macOS のみ対応（Windows版は現在ありません）
FileMaker Pro	2023 (v20) 以降を推奨。開発・検証は FileMaker Pro 26 で実施
FileMaker Go	アドオンの追加は不可。導入済みファイルの閲覧・利用は可能
FileMaker Server / Cloud	共有ファイルとして動作。アドオン追加はローカルコピーに対して行い、その後アップロードする

項目	要件
ネットワーク	症状入力・グラフ描画は不要。AIによる現病歴生成のみ通信が必要
AI APIキー	Anthropic（Claude）または OpenAI のAPIキーをご自身でご用意ください（現病歴生成機能を使う場合のみ）

---

3. 導入方法

1. ダウンロードした `MonshinChart_Mac.fmaddon` をダブルクリックします（デスクトップ等、どこに置いた状態でも構いません）。FileMaker Pro が自動的に起動し、拡張機能フォルダ（`~/Library/Application Support/FileMaker/Extensions/AddonModules/`）へ展開・インストールされます

2. 導入先の FileMaker ファイルを FileMaker Pro でローカルに開く（Cloud/Server上のファイルの場合は、ローカルコピーに対して作業する）

3. レイアウトモードに切り替える（表示 → レイアウトモード）

4. アドオンパネルを開く（表示 → オブジェクトパネル → アドオンタブ、 ⌘N）

5. 一覧から「問診グラフ」を探し、任意のレイアウトへドラッグ＆ドロップ（テーブル・スクリプト・レイアウトがファイルへ追加されるだけで、ドロップ先に部品は表示されません）

6. 導入が完了すると、以下がファイルに追加されます:

- テーブル: `ADDON_問診記録`／`ADDON_問診設定`／`ADDON_AI設定`
- レイアウト: `ADDON_問診設定`（問診入力・グラフ表示用Webビューアを含む）
- スクリプト: `ADDON_問診グラフ_起動`／`ADDON_AI_実行`／`ADDON_問診グラフ_データ受信`／`ADDON_問診グラフ_現病歴生成`／`ADDON_問診グラフ_画像保存`／`ADDON_問診グラフ_辞書更新`／`ADDON_問診グラフ_症状セット更新`／`ADDON_問診グラフ_新規セッション`

注意: `.fmaddon` ファイルを手動で拡張機能フォルダへコピーするだけでは動作しません。このファイルは展開前の配布用パッケージであり、ダブルクリックによる自動展開が必要です（すでに展開済みのフォルダを丸ごとコピーする方法でも動作します）。FileMaker Pro を起動中だった場合は、インストール後に一度終了して起動し直してください（アドオンパネルの一覧に反映されます）。

導入後、ブラウズモードに戻り、テーブルが正しく追加されていることを確認してください。
問診画面は、`ADDON_問診設定` レイアウトを開いて `ADDON_問診グラフ_起動` スクリプトを実行すると表示されます（4.2 参照）。

旧版を導入済みの方へ

症状セットの新規作成・削除機能（2026-11 版）は、導入済みのファイルには自動では反映されません。
新しい版を、別の空の FileMaker ファイルへ導入し直してください。問診記録を引き継ぐ場合は、 旧ファイルの `ADDON_問診記録` を新ファイルへインポート（レコードのインポート）してください。
なお、旧版のファイルに新版を重ねて導入すると、同名のテーブルやスクリプトが重複して追加されます。

---

4. 初期設定

4.1 AI設定（現病歴生成機能を使う場合）

1. ADDON_AI設定 レイアウトを開く

2. AIプロバイダ に Claude または OpenAI を入力（既定値は Claude）

3. 使用するプロバイダに応じて、ClaudeAPIKey または OpenAIAPIKey にご自身のAPIキーを入力

4. 必要であれば Claudeモデル／OpenAIモデル を変更（既定値: claude-haiku-4-5 / gpt-4o-mini）

重要:

- APIキーはご自身の責任で管理してください。他の医師と共有しないでください
- 現病歴生成の都度、AI APIとの通信が発生し、費用はAPIキーの契約者（導入者ご自身）の負担となります
- 送信されるのは症状名・重症度・経過の匿名化されたデータのみです。患者を識別できる情報（氏名・カルテ番号・医療機関名）は送信されません

APIキーを設定しなくても、症状入力・グラフ描画機能はそのままお使いいただけます
（現病歴生成のみ「APIキーが未設定です」というエラーになります）。

4.2 起動方法の組み込み

本アドオンは、ADDON_問診グラフ_起動 スクリプトを実行することで、ADDON_問診設定
レイアウトのWebビューアに問診画面が表示される仕組みです。導入先のご自身のカルテレイアウト等に、
このスクリプトを呼び出すボタンを追加してください。

起動前に、以下のグローバルフィールド（ADDON_問診設定）へ値を設定しておくと、
問診画面の初期値として反映されます（省略可）:

フィールド	内容
g_カルテ番号	カルテ番号・患者IDなど
g_医療機関名	医療機関名
g_ドクター名	担当医師名
g_受診日	受診日（YYYY-MM-DD形式推奨）
g_問診履歴JSON	前回までの問診データ（再診時の自動復元に使用。形式はADDON_問診記録_by主キー等を参照）
g_問診カスタム辞書	医師が登録したカスタム表現辞書（自動更新されるため通常は手動設定不要）

---

5. 使い方

5.1 問診入力

1. ADDON_問診グラフ_起動 を実行すると、Webビューアに「医療問診グラフ化」画面が表示されます

2. 左上の三本線（メニュー）ボタンから診療科・問診セットを選択（小児科系／内科系／外科系／皮膚科系／その他。複数選択可）

3. 受診種別（初診／再診／電話）を選択

4. 表示された症状カードごとに:

- パターンを選択（プルダウン。「＋ 手入力...」で独自の表現を入力・登録可能）
- 重症度チップ（軽症／中等症／重症）を選択
- 経過チップ（改善傾向／変わらず／悪化傾向 等）を選択
- 「＋ 期間を追加」でエピソード（発症〇日前〜終了〇日前）を入力。「＋ 再燃を追加」で複数エピソードにも対応

5.2 カスタム表現の登録・削除

- 症状パターンで「＋ 手入力...」を選び、テキストを入力して「確定・登録」を押すと、次回以降その症状の候補として表示されます
- 登録済みの表現チップの右側にある × をクリックすると、確認のうえ削除できます（誤って登録した表現を消せます）

5.3 症状セットの作成・編集・削除

左上の三本線（メニュー）ボタンを開くと、診療科ごとに症状セットの一覧が表示されます。

- 新規作成: 診療科の一覧の下にある「＋ 新規症状セット」を押し、セット名（30文字まで）と症状（1行に1つ、30個まで）を入力して保存します。皮膚科系の下にある「その他」にも作成できます
- 編集: 自分で作成したセットの鉛筆アイコンを押すと、名前と症状を直せます
- 削除: セットの右側の × を押すと、確認のうえ削除されます。自分で作ったセットは完全に削除されます。標準のセットは「非表示」になり、削除しても元に戻せます
- 標準セットを元に戻す:
  標準セットを非表示にしている間は、メニュー内に「標準セットを元に戻す」ボタンが表示されます。押すと、非表示にした標準セットがすべて戻ります

作成したセットと非表示の設定は、ADDON_問診設定::症状セット に保存され、次回起動時にも引き継がれます。同じ診療科の中に同名のセットは作れません。

5.4 グラフ生成

画面右上の「グラフ」または「AIでグラフ作成」ボタンを押すと、入力内容から経過グラフが自動生成され、以下が自動的に実行されます:

1. 問診データの保存（ADDON_問診記録 に新規レコード作成）

2. グラフ画像の保存（ADDON_問診記録::グラフ画像）

3. 現病歴の下書き生成（AI設定済みの場合。ADDON_問診記録::現病歴 と ADDON_問診設定::g_問診_txt に保存）

現病歴の下書きは、グラフ（Webビューア）の下の欄に表示されます。 この欄は
ADDON_問診設定::g_問診_txt
で、その場で編集でき、右クリックでコピーできます。ここで編集した内容は作業用の控えで、 保存済みの ADDON_問診記録::現病歴 は変わりません。AIが生成した文章は、必ず医師が確認・編集して ご利用ください。

5.5 新規セッション

画面上部の「＋ 新規セッション」ボタンで、入力内容をリセットして次の患者の問診を開始できます。

---

6. データの保存先

テーブル	主な用途
ADDON_問診記録	1回の問診ごとに1レコード。karteNo／shisetsu／doctor／visitDate／visitType／selectedSubsJSON／symptomsJSON／グラフ画像／現病歴
ADDON_問診設定	起動・表示用のグローバルフィールドと、症状セットの保存用フィールド 症状セット（1レコードのみ）
ADDON_AI設定	AIプロバイダ・APIキー・モデル設定。1レコードのみ

symptomsJSON には、症状ラベル・パターン・重症度・経過・エピソード（発症〜終了日数）がJSON形式で保存されます。他システムとの連携が必要な場合は、このJSONを読み取って変換してください。

---

7. トラブルシューティング

症状	原因・対処
Webビューアに何も表示されない／エラーページが出る	ADDON_問診設定::g_HTMLソース が空、または展開に失敗している可能性。ADDON_問診設定::g_エラーメッセージ を確認してください
「HTMLソースが未投入です」	g_HTMLソース フィールドにHTML本体が入っていません。導入し直してください
「問診記録が見つかりません」	ADDON_問診設定::g_問診最終保存ID に値がないか、対応するレコードが削除されています。先に問診データを保存（グラフ生成）してください
「Claude APIキーが未設定です」／「OpenAI APIキーが未設定です」	ADDON_AI設定 に該当プロバイダのAPIキーを入力してください
AI生成が失敗する（通信エラー）	ネットワーク接続、APIキーの有効性、利用制限（レート制限・残高）をご確認ください
作成した症状セットが、次に開くと消えている	ADDON_問診設定 のレコードが削除されていないか確認してください。このレコードがないと 症状セット を保存できません（1レコードだけ残してください）
グラフ入力中に画面が急に初期状態に戻る	Webビューアが乗っているレイアウトから別レイアウトへ切り替わると、Webビューアが再読み込みされ入力内容が失われます。ホスト側のスクリプトでレイアウト切り替えを行う場合はご注意ください

---

8. 既知の制限事項

- 現病歴・経過記録の自動生成にはAI API通信が必要です（症状入力・グラフ描画部分はオフラインで動作します）
- ORCA連携・処方箋印刷などの診療業務機能は含まれません（本アドオンの責務は問診入力〜グラフ生成〜現病歴下書きまでです）
- 他のレイアウトへ部品としてドラッグ＆ドロップする機能（テンプレートディレクティブ）は現バージョンでは未対応です。本アドオンが導入する ADDON_問診設定 レイアウトをそのままご利用いただくか、ADDON_問診グラフ_起動 スクリプトを呼び出す形でご利用ください

- 複数医師・複数施設での利用を想定した権限管理機能は含まれていません

---

9. ライセンス・免責

- 本アドオンに同梱される Chart.js は MIT License の下で配布されています
- 本アドオンはAIが生成した内容の正確性を保証しません。診療記録・処方等への反映前に、必ず医師ご本人が内容を確認してください
- 本アドオンの利用によって生じたAI API利用料等の費用は、利用者ご自身の負担となります

作成: DATools（旧称 DoctorAssist、個人活動）